

とも @ 歩む (27)

滝脇 憲

日本では今後、独り暮らしの高齢者や高齢夫婦のみの世帯が増えていく。私たち「ふるさとの会」が支援している人も、3分の1以上が70歳代の単身者で、約半数は独り暮らしだ。「認

知症になってもなじみの地域で最後まで」が、私たちの目標だ。しかし、年を重ね弱ってくる人、そもそも言っていない。だが近くて

墨田区で始めた。注目したのは一戸建ての空き家だ。都内には、腐朽や破損がなく、住める状態の空き家が約6万戸あるという。同区

「街に住む」安心と誇り

安い施設はめったにない。独り暮らしがしんどくなったら、お互い助け合って暮らしませんか」。そんな取り組みを今夏、東京都

内の2軒を借り、高齢だったり、障害があったりする単身男性6人に提供した。物件を貸してくれた不動産屋さんが、最寄りの商店

街にサロンを作ってくれた。用がなくても、誰でも立ち寄れる。家に住む」というより「街に住む」感覚だ。入居者だけで困らないよう、職員が毎日訪問する。困り事があれば、その都度、集まり、お互いに何ができるかを話し合う。「買い物に行けない」「トイレを汚してしまった」など、気になることを共有し、各自が役割を持って、解決する。誰かがパニックになって

も、その人の世界を皆で一緒に見る。私たちはこれを「寄りそい支援」と呼んでいる。「守られている」という安心感と「守っている」という誇りが、生きる力を高めてくれる。家主の大切な家を使わせてもらい、地域で住み続けたいという願いに応えていきたい。

◇ 43歳。NPO法人「自立支援センターふるさとの会」理事。

* 6人によるリレーコラムです。